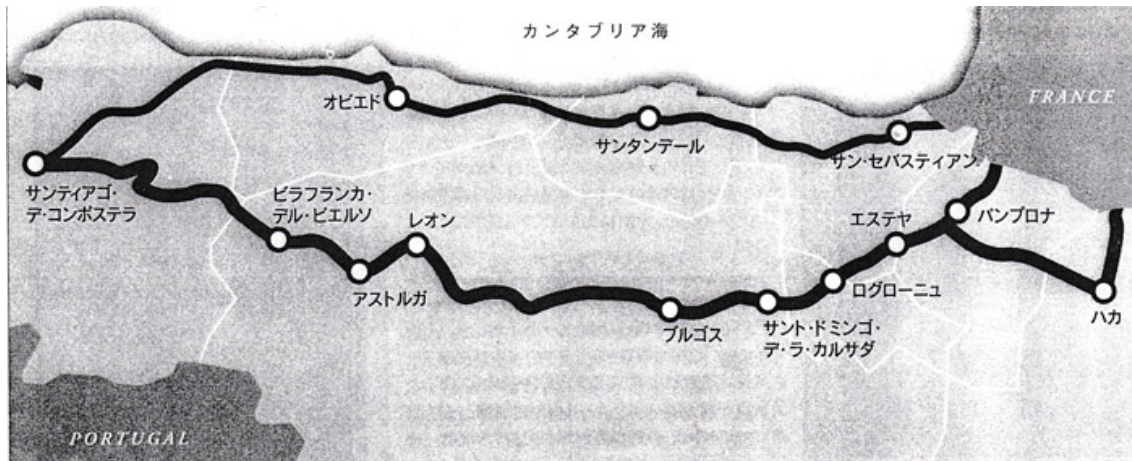


西暦 813 年、キリスト十二使徒の一人、聖ヤコブ
（スペイン語はサンティアゴ）の墓を発見、伝説によると、
パレスチナで処刑された遺体が二人の弟子と共にガリシア州に、流れ着き、
その後、変遷を経て、この地がキリスト教の聖地になったと。



大聖堂・サンティアゴ・デ・コンポステラ



山はみどり 野に花 人には心

ローマやエルサレム同様、世界各地から多くの人々が、
罪の赦しを得るために、
星降る道、銀河の道を進み、サンティアゴ・デ・コンポステラへ。
世界遺産のサンティアゴ巡礼の道は、精神的、文化的、
かつ歴史的に意味合いを持つとの事。

太陽と星に導かれて大地を移動する人々の流れを、
詩人ダンテは「巡礼」と命名。
7月25日の聖ヤコブの日が日曜日にあたる年には**大祭**が執り行われ、
その周期は、6年、5年、6年、11年、
今回は**2021年**。前は2010年だったとのこと。
2021年は、11年ぶりになり、大いに盛りあがるのではないかな。

巡礼者は、自分自身を見つめるために旅に出るとの事。長い道中、
その思いを込めて、ヨーロッパ文化の中心である
サンティアゴ・デ・コンポステラの聖ヤコブの祭壇に向けて歩き続ける。

結果、あらゆる困難に耐えて巡礼を成し遂げた者を暖かく迎えること。
この説明の出典は、スペイン政府観光局の資料から。
ブルゴスの大聖堂、各地の修道院や教会などの建築物も見事なもの。



私も車と歩きでの訪問だったが、海側、山側、往復走破の体験者。
今回はピンポイントで訪問。ルートは後日心模様。
翌朝、大聖堂前で、出会った巡礼者。
きっと達成感だろう、素敵に輝いた顔。満足感かも。私まで嬉しくなった。

